

都市と幼児教育

最近の都市生活の發展は、幼児の生活にも、さまざまな変化をもたらしつつある。

まず、第一に、都市全般にわたって、空氣が汚染し、日光と新鮮な空氣が欠如している。スモッグのために、太陽と青空をみることができず、夜空に澄む星を仰ぐことも、都市生活においては稀である。たえず呼吸する空氣の汚染は、幼児の健康上、重要な問題である。個々の教師や親には何とすることもできないだけに、都市問題として重大である。

第二には、都市における、草木、泥砂、昆虫などの自然物の減少である。ビルディング、道路の建設のために、樹木が伐り倒され、あるいは枯死しつつある。コンクリートで舗装された道路や、整った庭園はあっても、子どもが泥遊びする場所はなく、ままごとにできる雑草や、どんぐりを見つけることは困難である。しかし、幼児は、本来、原始的な生活を好むものであって、幼児の生活から泥と水を奪ったならば、それは精神衛生の上に、また、創造的思考力の育成の上に大きな影響を及ぼすであろう。

第三には、都市における住宅の狭小による生活の制限である。団地生活の普及により、三階、四階の生活をせねばならぬ子どもが多くなっている。幼児は自分から庭に出てゆくこともできないし、狭い家の中では、おとなの生活と衝突することも多い。幼稚園などの教育の場合においては、当然、このような条件を考慮にいれるべきであろう。

第四には、交通の激化に伴い子どもの生命が危険にさらされていることである。この点については、すでに各方面から指摘されているので、これ以上言及の要もないであろう。朝、交通の激しい道路に沿った店から、通園かばんをかけた幼児が出てくる。この子の住んでいるのは商店の二階である。午後になって、幼稚園から帰ると、この子は、店の前に立って、往来する人の波、車の波を眺めている。二階の家に帰れば、赤ん坊がねているから、静かにしていなければならない。もちろん、土もなく、草木もまわりにない。

このような子どもに対して、幼稚園は、何をなすべきであろうか。せめて、幼稚園においては、子どもの本来の姿にもどし、子どもとして経験すべきことを十分に経験させてやりたい。都市における幼児の保育機関が現代においてとくべつに負っている課題である。それとともに、ひろく社会全体が、伸びゆく子どもの生活および家庭生活のことを考えて、都市の發展に伴う諸対策が立てられることを切に望みたい。